

平成27年8月26日
全国国公立幼稚園・こども園長会
岩城 眞佐子

「幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けた検討会議」資料

- ① 国の調査研究拠点に期待すること
 - 幼児教育の質を評価する仕組みの構築
 - ・ 幼児教育の質は見えづらいものと言われてるが、子供の学びの成果、指導方法、施設の運営や環境等を評価する観点や方法を示していただきたい。(これが具体的に示されれば、各施設が自己評価や関係者評価、さらに第三者評価を進め、持続的に改善を促すことができる)
 - 幼児教育の実証的な調査研究の推進
 - ・ 諸外国において、質の高い幼児教育がその後の人生で、教育的・社会経済的効果を有するとの実証的な研究成果が得られているという報告がなされているが、日本版を期待したい。(追跡調査などを経て)
 - それによって、社会の幼児教育への理解が深まる。
 - ・ 認知的能力だけでなく、非認知的能力を高めることが大切であると言われているが、それを実証的な検証を通して明らかにしていきたい。
 - ・ 非認知的能力を育む教育内容・指導方法・環境等についても研究が必要である。
 - ・ 幼児教育から小学校教育への円滑な接続の在り方を考えるとともに、非認知的能力がどのように育まれていくのか、長期的に観ていくことも必要である。
-
- ② 国の調査研究拠点として必要な研究体制
 - 大学等の研究機関が中心となって
 - ・ 幼児教育団体や幼稚園・認定こども園・保育所等が連携を図り、実証的な調査研究を行う。また関係機関をつなぐネットワークづくりも重要になる。
 - ・ 教育と関わりの深い、脳科学や発達心理学などからの視点もデータに入れていかれるとよいのか。
 - 国立大学附属幼稚園と大学との連携
 - ・ 国立大学附属幼稚園は附属学校の特性を活かして先導的な実践を行ってほしい。またそれを地域の教育委員会と連携しながら地域の様々な幼児教育施設と研究に取り組む。